

## 常盤塾議事録

日時：2016年9月10日（土）10:00～13:00

場所：新国際ビル MBF ハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也

メンバー；常盤さん、片平先生、松永さん、古川さん、古城さん、出井さん、今田さん、大下さん、松崎さん、丸山さん、松山さん、安梅さん

### ・ アジェンダ

- (1) 一分間スピーチ
- (2) 常盤さんのお話
- (3) 片平先生の発表 ブランドと禅・日本文化

### (1) 1分間スピーチ

#### ・ 古城さん

掛川の駐車場で学生フォーミュラをやっている。

最近では本田もエンジンも外注。ドイツの会社のレベルが高い。

その影響を受ける学生はレベルが桁違い。

#### ・ 出井さん

太陽の動き 明石には日時計がある。

時の概念に対して馴染みがある。

追記：デパートの出店はその土地の文化も考えなければならない。

#### ・ 今田さん

車が話題。MAAS（モビリティ・アズ・ア・サービス）完全自動運転の社会。

人々は要は移動したいだけだが、ハードウェアの車はどこまで通用するか。

何に価値を置くのか。車ではなく、モビリティとしてのパッケージ。

#### ・ 大下さん

縄文の話（16000 年前から 3000 年前）

ヨットで来る人類がいなくなった。火山の噴火のせい？

まだまだわからない。

最近は植物の胚芽による年代測定も行われている。

今後科学の発達に期待。

カンガルーはもともと現地語で「わからない」という意味。

・松崎さん

サンリオの展示会に行ってきた。

サンリオの理念：世界中に仲良しの輪を広げる。

グリーティングカードから起業。

コミュニケーションを増やすためのツール

楽しみを世界に広げる。

「気持ち物が物に乗り移る」ことを実感した。

社員の好きが伝わる。

（バンダイも同じ）

・片平先生

永平寺のお話

山門の両側に「聯（れん）」がある。

どんな地位のものも仏の教えに従う。従わなければ入門できない。

入り口は鍵も扉もなく、どんなものにも開かれている。どんなものも受け入れる。

会社も門を立てるべき？

永平寺はお金の香りがしない。

常盤先生も行かれた。ドイツの人を連れてソーシャルアクティビティ

日本人とは全然違うことを感じる。

育った価値観が背景にある。

・丸山さん

デラウェアが最初の主流。

→種をなくす。

→巨峰が主流に。

→種をなくす。

シャインマスカットになると皮も食べれるように。

どんどん消費者のニーズに合わせる。

ぶどうは個人の農家が品種改良することが多い。

果物はロウを出して、それを洗い流す必要がある。

水で洗う時に赤外線センサーを使っているので停電になると出来なくなるリスクを持っている。

パッシブシステム・・・黒電話など自動ではないもの。今はそれも大事。

100年くらいもつ。社会インフラにはパッシブなシステムも必要。

自動にすることだけが大事ではない。

今の子供は公衆電話の使い方がわからない。

・松山さん

炭素繊維を自動車に応用しようという流れがある。

中国の実情を見るセミナーを開催すると、技術レベルは日本とほぼ一緒。

使っている機械も一緒。

量産化できるのは中国なのでは。

日本は素材が強いが、その加工に日本の優位性はない。

会計士さんの意見

自動化の大量生産は、不動産投資と一緒に。

作ったらそれ以上新しくない。

どれくらいで回収できるか、という考え方を持っている。

→ビジネスに対する文化が違う。

中国は製造業と不動産で成長してきた。

次はソフトウェア？（知恵を使う）

しかし個人でやるので産業にならない。

日本でも少ない。ヨーロッパではよく出る。

日本や中国は大企業病、少人数でビジネスができない。

・安梅さん

アルゼンチンの朝タンゴのお話

「秩序」と「変化」がある。「一緒」の部分と「遊び」の部分。

ステップは決まっているが何をやっても良い。

日本のラジオ体操も新しい発想のものが必要なのでは？

グラスワインのグラスが大きい。小がハーフボトル。それは変わらないでほしい。

日本のラジオ体操は郵便局がやっている。

自由がない。不満。(常盤さん)

### 【お詫び】

最初にお話いただいた松永さん、古川さんの1分間スピーチについて、配布資料の準備をしていたため議事録を取ることができませんでした。

大変申し訳ありませんでした。

今後このようなことがないように、録音などを使い対応いたします。

## (2) 常盤先生のお話

自然と人間

人間だけ別というのは思い上がり。

宇宙ともつながる自然の一部。

年とともに、生きるものの意味が変わってきている。

京都大学の佐伯先生の記事のお話。

異論の勧め。

みんなとはちょっと違うが、日本人の心のふるさと。

成長の質を考える。

経済の拡大のみを議論しているがそれで良いのか。

もっと質、成長主義の妥当性を議論すべき。

安倍内閣などは成長主義。

なぜ成長しなければいけないのか？

国民の同意が背景になければならない。

成長にどんな意味があるのか、妥当性を確保しない限り、日本がどこへ行くの

かわからない。

本質なのは、日本の仁などの考え方、「無」の思想である。

→西洋は「有」の思想。

西洋に対抗するには、無の思想を使っていかなければ。

グローバリズムの行き先はどこにあるのか？

最近反グローバリズムの思想が、各所から出てきている。

人が生きるためには、あるユニットを持っている。

つまり幸せの形が個人にはある。

それと同じで、国にも経済の形がある。

また最近ナショナリズムへの回帰が見られる。

イギリスの EU 脱退に関して、EU というのはグローバルな集団。

しかしイギリスはそこは価値観がちがうので離れた。

グローバリズムに対する警鐘という説がある。

貿易などの損得は、ある一つの側面でしかない。

そういう視点での議論が面白い。

### small is beautiful のお話

書かれたのが 40 年前、オイルショックの頃。

著者シューマッハ、ドイツ生まれ。経済哲学者、文明論者

佐伯先生は、偽善的、当たり前だと思った。

しかし最近が良いと思える。

これは、時代が変わったために、本の持つ価値が変わったから。

人間が人間的な仕事、安定した生活を送るためには、適正な規模がある。

最近はその規模を超えているのでは。(会社をどんどん大きくしたり)

効率、成長信仰である。

もっと身の丈にあった経済活動を考えよう。=small is beautiful の意味。

近年の科学技術を使って経済を伸ばそうという動き。これで良いのか。

人間が楽しんで仕事をしたり、頭や手を使う仕事がどんどん奪われている。

すなわち、創造的な仕事が減っている。

これは結局、自然の破壊につながる。

さらに大事なことに、人間の尊厳、創造力を破壊しかねない。

これで人はいいのか？

より機械的な部分の少ない、人間的な技術があるはず。

ローテックイノベーション（ハイテクではない。）を考えていかなければならない。

グラミン銀行のように、お金のためじゃなく人間の生活のための経済活動があっても良い。

新たな形而上学が必要。

今の経済学から解放されなければならない。

これは経済学に対する問いでもある。

現在、第四次産業革命で各国が熱中しており、日本もそれに追随。

それで良いのか？

経済が伸びることは、良いことか悪いことか、経済学者は答えられない。

今は不健全な成長に向いているのではないか。

今問われるのは、量ではなく、質。

ロボットやAIが人間にどんな影響をもたらすのか考えなければならない。

今の社会、グローバルゼーションなどでどんどん変わっていくが、人間の成長には適正速度がある。

情報化についていけない。

人間は20000年前、熱帯樹林から出てきた。

その頃の周りにある情報を処理する能力を獲得してきた。

情報と生活は対話している。

周りから入ってくる情報で生きる生き方を形成してきたが、あまりにも成長が早いので、どう生きたらいいのかわからなくなっている。

情報化でいくら情報が入ってきても、それは本質ではない。必要な量を超えてきている。

それで精神病なども出てくるのではないか。

人間と情報の間に、生きる歪み、きしみを引き起こしている。

もし人間が病気にならないとしたら、生きることが呪いのようになる。

忙しくするのもいいが、物事を考える余裕を持つことが大事。

自分らしく生きることを忘れない。

世の中は偽善のようなもので溢れている。

例：震災の時の「絆」

もう使われなくなっている。

実態とずれている。

その時の流行りであり、もう誰も言わない。

利他で良いと言っている人は本当に利他か？

自利の中に利他があり、利他の中に自利がある。

並べて議論することがおかしい。

二分法に縛られて、日本人の大切なものをなくしているのでは。

(ここから配布資料)

良き仕事とは何か。

シューマッハは「良き仕事」という本も書いている。

みんな忙しくしているが、それで良いのか？

良き仕事は、良き人と重なる問いではないか。

この問いが日本の問題を脱却する方法。

いい仕事をすることでいい人が育つ。いい人がいい仕事をする。この循環が企業活動である。

### (3) 片平先生の発表

(スライド資料は片平先生がメールで送ってくださったのでそちらをご覧ください。)

以下、ディスカッション

(松永さん)

岡潔の本、数学のできる人は、なんとなくわかる。

直感で大丈夫らしい。

物事を感じ取る力も大事。

雨の時に体が痛いとか感じ取ること。

一つは臭い。これは仕事に帰着する。

漁師の人は、船の上から海流とかを感じ取る。

子供をどう育てるか。感じ取る力が大事なのは。

ドイツの森の幼稚園とか。

鼻ではなく、奥の方で感じ取る臭い。

それが知性に関係するのでは。

ブランドもそう？

(片平先生)

岡潔は奔放に感じ取り、かきなぐっている。

アブダクションの起こるような仕事をする

偶発的だけどそれが決め手のこと

(スライド資料に戻る)

仕事うんぬんではなく、生活の中の「縁」を使っていく。

それが成功につながった。

ソニーの例。

シマノの例。(製品を積んで 6000 件を回った。)

子供同士が学校同じとか、一緒にスキーに行くとかそういうこと。

偶発的なものの結果。

(常盤先生)

広告を外注しない。

なぜなら自分たちの芯が外に伝わることはないから。

思いは自分たちにしか伝わらない。

作った人が広告まで作らないとダメという考え方。

臭いが一番残る感覚。

人のうちの臭いとかがある。

物理的なものを超えた臭い、それを子供は感じる。

草原でかわした会話は、草の臭いと共に覚えている。(Far Away And Long Ago)

大人になって草原に来ると、全部思い出す。

遠いところにあった臭いでも、自分の生涯の一ページになっている。

(松永さん)

都市はコンクリートで臭いがない？

臭いは仕事と共に付いてきていたが、情報がそれらを潰している。  
チャーリーズエンジェルという番組を観ている。  
トランクのなかにトランクが入っている。  
その中に船舶電話。  
一方近年ではみんなスマホ。みんなポケットに入れてる。  
→携帯の価値も変わってしまった。  
農家では土の臭いで天気を感じる。都市で暮らすと、ない。  
臭いってどうしたらいいのか。

(古城さん)

近年はスメハラとか言われる。  
臭いに敏感。

(常盤先生)

僕の言っているのは形而上の臭い。

(片平先生)

昔の小さい瓶のお酒を飲んだ。ジョニーウォーカー（ジョニ黒）  
飲んだ瞬間、自分の不良時代が蘇った。  
今のものだとダメ。

(松永さん)

昔は工場にもハンダの匂いがあつた。

(安梅さん)

乾布摩擦が感覚を研ぎ澄ませるらしい。

(みなさん)

寒風摩擦だと思っていたという話。

(常盤先生)

ジョニーウォーカーのブランドをどうつくったか？

ジョニ黒は高かった。貴重なブランド。  
もっと売らないのか？と尋ねると、  
実は原料はほとんど同じ。  
しかしジョニーの赤と黒の割合を絶対に変えない。  
希少価値を保っておく。  
黒が売れるからといって、黒をたくさん作らない。

(片平先生)

サントリーのプレミアムモルツがそう。  
売れるからって売りすぎた。  
響12年は樽がなくなってしまった。  
ポルシェは、「需要より1台少なく作る。」

(今田さん)

なんだって少なくして高くすれば売れるのでは？

(片平先生)

能楽堂は、650人しか入らないように作ってある。

(今田さん)

ほとんど世の中の価値はそれ。

(常盤さん)

ポリシーがブランドの裏にないとダメ。

(片平先生)

人によってブレないもの。

(安梅さん)

常盤塾も感覚を磨きに行くべきでは？

(常盤さん)

ビルの中で語るだけでなく。

(片平先生)

鹿児島酒造に行った。

この前はシャルマン（鯖江のメガネメーカー）に行った。

まさに常盤塾にぴったり。

美智子さまが特注で作ったメガネ。

福島先生（外科医）の手術器具を作っている。

タットリンゲンという村に医療器具のナンバーワン企業がある。

しかし全然よくない。

シャルマンが解決。

手術する先生ごとに作っている。

全然儲からない。

いつか存在感で抜きたい。

そういうところに行きたい。

酒の味が難しい。飲んだ瞬間と、飲んでいく時の味が違う。

先生は暴食をやめた。

血圧が下がった。120・90。

痛風も全然平気。

(古川さん)

環境によって変わる。

(片平先生)

僕は環境じゃなくて自分を変えた。

(古川さん)

選べる環境があるかどうか。

(片平先生)

鰹節の本物はとても美味しい。

よくある鰹節は味の素みたいのが入っている。

(常盤さん)

鯉節の最後の削り残りをもらってた。

(片平先生)

削り機を作る人がほとんどいない。

我々が意識して使わないと潰れちゃう。

ベントに乗ってる鯉節メーカーと、軽トラにも乗れないメーカー

本当に良いのは後者。

(松永さん)

エンジンを買ってきちゃって大丈夫？

うちでは数式を買ってくるようになった。

(常盤さん)

重要なのは哲学。

アウトソーシングは結果だけ買う。プロセスはわからない。危険。

(片平先生)

シンクパッドがメイドイン米沢

米沢で作ってる。

(今田さん)

メイドインジャパンが作りたくて、わざわざ日本で作っている。

(松永さん)

ダイナブックが出た時、米沢の工場がキャッチアップした。

NEC 本体はそのビジョンが描けていなかった。

米沢のは一番大事な部分を作って、あとはつぎはぎ

彼らは賢い人たち

そういうのは土地に残る。

小さいまま残した方が良いのでは。

常盤さんのお話にあったように、身の丈に合うものを。

(片平先生)

ソニーも「小なるを望む。」とあった。

(常盤さん)

芯に草冠があるかないかが大事。

実体のある、という意味？

そこを強調すると面白い。

(今田さん)

思いの上部分は田んぼ。草が集まると田んぼ。心になると草がなくなるのは面白い。

#### ・ 今後について

次回は今田さんが「科学者と頭」

1 1月は発酵の話「ミクロの巨人たちの神秘」

(常盤さん)

昆虫の哲学

人間を掘り下げると、人の中にその答えはない？

人以外の中にある。

業界の中に、改革の手がかりはない。

他の業界に種がある。

それと同じ。

人間社会の中に、よりよく生きる方法はない。

あらゆる方法は試されている。

生態とか学ぶとよいのでは。

微生物もそう。

遠足も考えたい。(安梅さんの)

年末は「末げん」に行きたい。